

そろそろ梅雨が明けるのでしょうか？ 毎日暑いですね。健康に注意しましょう。←発行する20日頃の状況で書き換えます。

／／／／ I N D E X －／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／

- ・ ISO 関連解説----- IS014064-1 改訂の進捗-監査？
- ・ LCA の実務 mini 45---○工場内リサイクル②並列の工程
- ・ LCAF からお知らせ---○[再掲です]国や地方自治体の LCA/CFP 算定支援事業のお手伝いをします。
- ・ 編集後記-----掘り出し物？

■■ ISO 関連解説：IS014064-1 改訂の進捗-監査？ ■■

IS014064-1（いわゆる「組織の CFP」）の改訂作業が進んでいます。これも改訂作業が進んでいる GHG プロトコルの Scope3 基準とダブルロゴで発行する予定になっているので、GHG プロトコルのワーキンググループに ISO としての意見を出せるように、かなり急いで議論を詰めています。

GHG プロトコルで進んでいる 4 つの報告を ISO でも採用するかどうかが大きな方針の課題だと思うのですが、まだ意見集約ができていません。（LCAF 通信 No. 99 及び No. 100 を見てください。）

現在は、従来の 14064-1 の範囲、すなわち電力のロケーションベースを基礎とした従来の GHG プロトコルの Scope3 基準と共通の範囲の改訂案の取りまとめを進めています。

6 月 1 日の深夜の IS014064-1 のワーキンググループでは、Scope1, 2 及び 3 を算定する企業の範囲が議論されました。日本語では一般的に「連結の範囲」と言いますが、英語では「financial control」または「operational control」の範囲で算定することを GHG プロトコルが勧めています。ISO は、これに「equity share」の範囲を加えることになりました。「equity share」はいわゆる「株式の保有範囲」ということです。「financial control」と「operational control」も株式保有率だけで決まるものではなく支配や運営の実態を踏まえて判断されますが、その明確な定義は示されていません。

日本でも有価証券報告書に環境情報の開示を義務化する制度が進んでいます。この時に、組織の CFP も従来の財務情報の「連結の範囲」と同じ範囲で算定しないと整合性が失われるという考え方が背景にあります。財務監査と同じ範囲で、組織の CFP に第 3 者の「限定的保証」を導入するという将来の制度設計と密接につながっています。

ISO 14019-1:2026（Sustainability information Part 1: General principles and requirements for validation and verification, 持続可能性情報第一部：妥当性確認と検証のための一般原則と要求事項）が今年の 2 月に発行されました。この規格に準拠した組織の CFP（Scope3 の算定）の限定的保証が進められるという方向性が見えてきているように思います。私は ISO で算定に関する規格作業に従事してきましたが、ISO の審査機関や監査法人の皆さんとの意見交換が必要な局面と感じています。

■■ LCA の実務 mini 45：工場内リサイクル②並列の工程 ■■

前号では工程が直列につながっている場合を考えました。今回は、購入した新品原料を二つに分けて、工程①で製品①を、工程②で製品②を作る場合を考えます。工程①と工程②は並列です。製品①と製品②は大きさが違うだけです。それぞれの工程で端材が出ます。それを共通のストックヤードに集積して、製品の売れ行きと原料の価格を考えながら工程①と工程②にリサイクルして使います。つまり新品原料と端材の性状は全く同じなので、新品原料だけを使って製品を作ることできますし、端材だけを使って製品を作ることできます。

まず、工場全体のストックヤードの端材量が常に一定である場合を考えます。端材は工場内で使われるだけで外に出ることがありません。工程①と工程②を合わせて考えれば、工場全体で使われた新品原料が製品①と製品②に配分されていることになります。つまり、工場全体に投入された新品原料は、製品①になる量だけ工程①に、製品②になる量だけ工程②に投入されたものとして計算することになります。実際に工程①と工程②で使われた端材の量は算定には関係しません。重量基準で配分すれば、製品①と製品②は 1kg あたりの CFP は同じです。

工場内に並列の工程がたくさんある場合は面倒になりそうですが、すべての工程を足し合わせれば、それぞれの工程で実際に使われた端材の量は CFP の算定には関係しなくなるはずで

たがって、「どの工程でも製品になった量だけの新品原料が使われたものとして CFP を算定」します。

たくさんある並列の工程の一つだけを取り上げて CFP を算定しようとする、極端な場合は、工程 X では新品原料を使わずに端材だけで製品ができていることがあります。前号の「直列の工程」のように端材の GHG 排出量をゼロとして計算すると、GHG 排出量がゼロの製品になります。逆に、新品原料だけで製品ができている工程 Y で、併産される端材に GHG 排出量を配分しないことにすると、できる製品に新品原料の GHG 排出量のすべてを配分することになります。「どの工程でも製品になった量だけ新品原料が使われたものとして CFP を算定」する場合と大きく異なることに注意してください。

なお、今回は端材量が一定という前提でしたが、工場内の端材量が大きく増えたり減ったりする場合は、さらに時系列の分析が必要になります。どのような状況（時点）で生産されたか考えて算定しなければなりません。

■■ LCAF からのお知らせ： ■■

○[再掲です] 国や地方自治体の LCA/CFP 算定支援事業のお手伝いをします。

- ・例えば以下のように、国土交通省は建材等の CFP 算定を支援しています。

LCAF ではこのような支援事業に、応募の準備から採択後の算定のお手伝いをします。

- ・国土交通省支援事業：CO2 原単位等の策定に係る支援>

<<https://www.kkj.or.jp/gx-dx/index.html>>

- ・まずは、30 分の無料の初期相談で支援を受けたい内容をご相談ください。

<https://lcaf.or.jp/technical_advisory/>

○[再掲です] 参考図書「基礎から学ぶ LCA～LCA の実施と活用～」の第 4 刷を発行しました。

特に「第 12 章：LCA と国際標準規格」に最近の ISO の発行状況を反映しました。

以下からお申込みください。(3,000 円＋税＋送料) です。

<https://lcaf.or.jp/education/textbook/>

○[再掲です] グリーンウォッシュの本を和訳しました。

- ・「地球にやさしい？一偉大なるグリーンウォッシュ」3,190 円（税込）です。

■■ 編集後記：掘り出し物？ ■■

「なんでも鑑定団」を時々見ます。「いいー仕事をしてますね」というあれですね。50 万円で買った掛け軸が 7,000 円だったりします。本物だと 100 万円と言うのですが、彼が 100 万円で購入する人を探してくれるのでしょうか？ それとも本物としても絶対的な価値なのでしょう。

タレントさんが海外の骨董市で、例えば有名な陶磁器の本物を探す番組があります。最後に専門家が示す価格は、彼が買ってくれる値段なのでしょう。

経済学では、モノの価格は需要と供給のバランスで決まるというのですが、社会にはモノの価格を決めて、供給者と需要者を仲介してくれる人がいるようです。前号でストックホルムの空港でのタクシー代の交渉を書きましたが、仲介者がいなくなると、なんでも交渉しなければならなくなります。私はとても不得意です。大阪ではデパートでも値切るといいます。ほんとですか？

自動車の自動運転が現実的になってきました。とっさの時に事故を回避できればよいのですが、どうしても回避できないときに、ぶつける相手の順位を決めるプロトコルが必要だと聞いたことがあります。私はもう年寄りの部類ですから若い人よりも価値が低いのだと思います。事故の時の保険金の金額でプロトコルを組み立てるのだとすればですが。。

日経平均が 7 万円に迫る勢いです。企業の価値はどのように決まるのでしょうか。この株を買っておけば値上がりするという期待感だけのようにも思います。CO2 排出量を削減しないと生き残れないというのは、遠い昔の神話のようです。

さて、LCAF の相談料は他のコンサルさんと比べて高いのでしょうか？ 初期相談（30 分）は無料ですのでご活用ください。また、この LCAF 通信も無料配布です。もっともこれは私の趣味の範囲なので当たり前ですね。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

ご意見、ご感想、この「LCAF 通信」の配信停止のご連絡はこちらまで

lcaf-contact@lcaf.or.jp

一般社団法人 日本 LCA 推進機構

Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)

(エルカフと呼んで(読んで) ください)

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-10-2 渡辺ビル 5F

電子メール : a.inaba@lcaf.or.jp

電話 : 090-1423-0863

URL: <http://lcaf.or.jp/>